
三重県教育委員会

取組内容

日本語学習クラブの取組について
教職員向けの日本語指導研修について

①日本語学習クラブ

■概要

日本語指導が必要な外国人生徒を対象に、社会生活に必要な日本語の力（話す、聞く、読む、書く）を育むことを目的とし、専門家による日本語指導のほか、日本の社会の一員として、自立して生きるうえで必要な社会制度や生活文化について学ぶ場を提供する。

■取組詳細

放課後に1時間程度、年間30回実施（新型コロナウイルスの影響により中止有）。実施校の生徒は指定の教室に集合し、実施校以外の生徒はオンデマンドでクラブの動画を視聴する形式。



（日本語学習クラブの様子）

【実施内容】

- ・「話す」「聞く」「読む」「聞いたことや読んだことをまとめて書く」活動を通じて、来日後間もない外国人生徒が、高校生活の早い段階で、日本語能力試験 N3 相当の日本語能力を実践的に身につける。
- ・キャリア教育の視点を含めた日本語学習教材である「日本語学習で未来を描く～高校生版みえこさんの日本語ワークシート～」(公益財団法人三重県国際交流財団が作成)を活用して、進学や就職に必要なことを学んだり、労働条件や税金などの職業に関する知識を身につける。
- ・地域で働いている外国人の先輩を招いて、将来の進路について考えたり、日本の生活文化について理解を深める。

②教職員向けの日本語指導研修

■概要

日本語指導が必要な外国人生徒が在籍する県立高校の教職員を対象に、来年度以降も各校の日本語の授業や個別指導で活用できるようにすることを目的とする。

■実施のきっかけ

県立高校に在籍する日本語指導が必要な外国人生徒の多国籍化多言語化が進んでいる状況から、専門家による日本語指導の実施及び普及を目指し、令和3年度に委託事業として実施。

■取組詳細

日本語学習クラブで使用する教材を使った日本語の指導の方法について、教職員研修会を今年度4回開催。

日本語指導が必要な外国人生徒が在籍する学校への周知、Google クラウドルームを利用したオンラインでの情報提供を行う。

事業を実施する際には、参加する生徒の保護者向けに多言語翻訳した案内文を送付し、放課後の活動により時間的拘束が発生することに理解を求めている。

①日本語学習クラブ・②教職員向けの日本語指導研修 共通

■取組詳細

【予算・財源】

県独自の予算の他、国の補助金を3分の1活用。

【主な担当者】

- ・ 三重県教育委員会事務局の指導主事
- ・ 委託先（三重県国際交流財団）の事務局員及び講師（大学教授等）
- ・ 実施校の外国人生徒担当教職員
- ・ 教育委員会が雇用する会計年度任用職員（母語による支援を行う「外国人生徒支援専門員」及び日本語指導の支援を行う「日本語指導アドバイザー」）

■成果・今後の方針

【成果】

日本語指導が必要な外国人生徒が、自分の在籍する教職員以外から指導や助言を受けることで、日本語の習得や進路選択の際の刺激になっている様子が見受けられる。

【課題】

会計年度任用職員の雇用も含め課の事業費で賄っているため、予算の確保が困難。

【今後の方針】

オンラインを活用した情報共有や研修を充実させる予定。

堺市教育委員会

取組内容

拠点校を核とした日本語指導体制について
一人一台端末を活用した学習支援について

①拠点校を核とした日本語指導体制

■概要

通級・遠隔指導を行う拠点校式「日本語指導センター校」を本市4エリア（中学校4校）に設置。来日間もない児童生徒の日本語初級レベルの指導を行う。

■実施のきっかけ

拠点校体制は令和2年度より実施。対象児童生徒の増加、散在化への対応として始める。拠点校での遠隔指導の導入は令和3年度より実施。

■取組詳細

通級・遠隔指導を行う拠点校式「日本語指導センター校」を設置し、日本語指導のスキルの高い教員（日本語教師養成研修受講者や日本語教育能力検定試験合格者等）を各校に複数配置。来日間もない児童生徒の日本語初級レベルの指導を通級や遠隔指導により実施している。

特に遠隔指導では、これまで、通級が困難な子どもに対しては、センター校教員が巡回指導により1対1の日本語指導を行っていたが、教員の人員不足等が課題となる。

一人一台端末の導入を機会に遠隔指導を導入。通級ができない子どもたちへの日本語指導を実現するだけでなく、教員の巡回指導では不可能であった、遠隔によるグループ学習が可能となり、共に日本語を学ぶことができるようになった。

その他にも、学習言語能力レベル児童生徒の日本語能力の見取り及び「日本語指導・支援シート」作成による在籍校への指導支援への助言、国際理解教育の推進啓発や遠隔指導による敬語や作文指導等（令和4年度より試験的運用）を行う。また、集住校に配置している日本語指導教員への指導助言も行い、日本語指導ができる教員の育成を図る。

②一人一台端末を活用した学習支援

■概要

日本語での授業参加が困難な児童生徒（主に小学校高学年以上）のうち、母語が定着しているものに対して、一人一台端末を活用した翻訳支援。

■実施のきっかけ

一人一台端末の活用開始は、令和2年度1月頃より試験導入。日本語の壁の為、学びが止まり、将来への展望に自信をなくす外国人児童生徒の状況を少しでも改善したいという思いが長年あった中、GIGAスクール構想の導入が発想のきっかけとなった。

■取組詳細

Microsoft社の翻訳機能 translator による授業者の同時通訳支援を導入している。日本語指導と並行して行うことで、帰国来日間もない児童生徒の学びをとめない支援を行う。

受入れ面談の際に、市教委及び日本語指導センター校教員が立ち会うことで、日本語指導体制や翻訳機能による支援方法等を紹介している。

【関係団体】

日本 Microsoft 社との協力・連携提携

【予算・財源】

国からの教員配置及び GIGA スクール構想に準じた予算のみ

①拠点校を核とした日本語指導体制・②一人一台端末を活用した学習支援・共通

■取組詳細

【主な担当者】

市教委の日本語指導担当課の担当指導主事が、全体のコーディネートを行いながら進めている。

教職員の配置は、本市教職員人事課と連携のうえ、人材の確保育成は日本語指導担当課で行っている。外部人材派遣についても、日本語指導担当課で行っている。

■成果・今後の方針

【成果】

外国にルーツのある子どもたちの日本での学びへの不安の軽減につながった。

【課題】

- ・遠隔指導による日本語指導を行う際の教員配置。

オンラインでの日本語指導を行う場合は、児童生徒の横に教員がつく必要があるため、一人の児童生徒への遠隔指導に対して教員が2名必要となっている。安全面を考えても、学校内で児童生徒を教員の管理外で別室指導はできないとも考えているが、外部人材の活用等が認められれば教員の人員負担は軽減され则认为している。

- ・一人一台端末の管理面。端末を複数使う為充電や持ち運びが大変。

- ・翻訳機能の誤訳を防ぐため、日本語話者の正しい日本語の使用に課題。

【今後の方針】

令和4年度末より就学前幼児、その保護者を対象にしたプレスクールの導入を検討。

湖南省教育委員会

取組内容

交流会・ワークショップの実施について

①日本語初期指導教室（さくら教室）の取組

■実施のきっかけ

外国籍の児童生徒の増加に伴い、市全体で初期指導を行い、学校生活へのスムーズな適応をねらいとして2007年9月から設置。

■取組詳細

来日後間もない児童生徒や日本語初期指導の必要な児童生徒を対象に、3ヶ月～1年間、市が設置している日本語初期指導教室（さくら教室）で日本語の基礎や生活習慣・文化について学ぶ機会を設けている。通級後、児童生徒は在籍校に戻って学習を続ける。市の国際協会と連携し、さくら教室では週に1回のボランティアの方々により文化講座も行っている。

②外国にルーツのある児童生徒交流会の取組

■実施のきっかけ

外国籍の児童生徒の増加に伴い、体験学習だけでなく、仲間や先輩との交流を通して自信を持って学校生活を送り、社会に出て活躍できるようにとの願いを込めておよそ15年前に開始した。

■取組詳細

小学校では学区ごとに外国にルーツのある児童の交流会を行っている。主にレクリエーションを中心とした仲間づくりをメインに、地域のボランティアの方々を講師に招くなどして交流を行っている。

中学校では、全4中学校合同で交流会を開催している。

前半の部では文化のワークショップ（日本、ブラジル、ペルー文化を一年ごとに体験する）を行い、専門家（日本は剣道・昔遊び、ブラジルはカポエイラ・お菓子作り、ペルーはマリネラ・お菓子作り等）を招いて実際に体験しながら仲間づくりや自尊感情の高揚を目指した取組を行っている。運動が得意な生徒も苦手な生徒も体験活動ができるよう、二種類の活動を準備している。

後半の部では、市内中学校を卒業した社会人の外国籍の若者を講師に招き「進路のワークショップ」を行い、体験談を聞きながら高校や進路、それぞれの生き方について考えたり、交流したりする機会を設けている。

滋賀県国際協会とも連携し、交流会の最後には、進路に関する情報や資料を生徒に説明・配布していただいている。小学校・中学校の交流会の開催に向けては、各校の日本語教室担当教員や日本語初期指導教室（さくら教室）室長が年間3回集まり、市全体で協議をしながら取組を推進している。

湖南市国際協会、滋賀県国際協会、国際交流グループ「カリーニョ」と連携し、進路の情報の提供や、講師の開拓について助言をいただくこともある。

③外国籍親子子育て支援事業（すまいりー）

■実施のきっかけ

夏休みの課題に取り組むことが難しい児童生徒が多くいることと、2学期からスムーズな学校生活を送ることができるようにするためにおよそ15年前に開始。

■取組詳細

夏季休業中に外国籍児童生徒の多い3つの中学校区を中心に夏休みの宿題を支援するための学習会を実施している（夏季休業中に3回から4回程度実施）。

教職員、通訳、支援員、湖南省国際協会、滋賀県国際協会、県内の大学生、地域のボランティアの方々等に講師として参加して頂いている。

ポルトガル語やスペイン語で案内文書を出すようにし、モニカスタンプ（外国籍親子支援スタンプ）を活用し、重要な情報が的確に伝わるよう工夫している。

【予算・財源】

全てにおいて市費で対応。

【主な担当者】

湖南省が主体となり、教職員や通訳、ボランティアの方々と連携しながら実施している。

①の日本語初期指導教室には室長のほか3名のポルトガル語やスペイン語を話せる指導員が指導にあたっている。

①②③共通

■取組詳細

【予算・財源】

全てにおいて市費で対応。

【主な担当者】

湖南省が主体となり、教職員や通訳、ボランティアの方々と連携しながら実施している。

①の日本語初期指導教室には室長のほか3名のポルトガル語やスペイン語を話せる指導員が指導にあたっている。

■成果・今後の方針

【成果】

- ・取組が多くの方々の賛同を得て、たくさんの方々が協力してくださるようになってきており、以前、生徒として参加していた若者が講師として参加してくれるようになってきている。
- ・児童生徒のロールモデルとなる先輩が出てきている。
- ・さくら教室での初期指導から各校での日本語指導へと日本語指導体制が市全体で構築されてきている。
- ・児童生徒が進路について向き合い、前向きに考えることのできる機会となっている。
- ・ほぼ全ての外国にルーツのある生徒が高校に進学している。
- ・外国にルーツのある若者の活躍の場が広がってきている。

【課題】

- ・通訳や支援員への謝金の額が増額できるとよい。
- ・児童生徒の学習言語の習得には時間がかかる。
- ・コロナ禍のため、昨年度と今年度は全体が集まったの交流会を実施せず、各中学校で先輩を招いての「進路のワークショップ」を実施。

【今後の方針】

- ・さらなる支援体制の向上（持続可能な日本語指導体制の構築）
- ・多言語化の進展が予想される支援の必要な児童生徒への支援体制

稲敷市教育委員会

取組内容

スクールソーシャルワーカーの設置について

■概要

稲敷市独自で生活支援を行う者としてスクールソーシャルワーカーを配置している事業。

■実施のきっかけ

稲敷市内の学区の中には、年々、外国籍の家族の転入が増え、日本語指導教室を設置する小学校がある。

このような状況下で、児童生徒が抱える問題への対応を、学校だけでなく、スクールソーシャルワーカーの強みを生かしたアプローチも大切にしたいという考えをもとに、令和3年度から、稲敷市独自の予算で開始。

■取組詳細

児童生徒が抱える問題について、家庭環境等を把握し、関係機関との連携からの福祉的なアプローチをする際に、いじめや不登校問題等のほかに、日本語指導の必要性の有無についての視点を加えるということから、スクールソーシャルワーカーの配置をしている。

今年度からスクールソーシャルワーカーの派遣事業を始めたことを、市の校長会や教頭会での説明を通して、各学校へ周知。

学校のカウンセリング担当者やスクールカウンセラーを通して、問題を抱える家庭にスクールソーシャルワーカーの存在を紹介している。

【関係団体】

- ・ 稲敷市教育センター（適応指導教室）
- ・ 市こども支援課
- ・ てらこむ（NPO SMSC）

【予算・財源】

稲敷市独自の予算（一般会計＞教育費＞教育総務費＞学校指導事務費）
週1回（毎週水曜日）の勤務

【主な担当者】

- ・ スクールソーシャルワーカー 1名（NPO 法人 スペース空 所属）
- ・ 稲敷市教育センター職員（スケジュール管理）
- ・ 稲敷市教育委員会指導室指導主事

■成果・今後の方針

今年度新たに始めた事業のため、現在、成果と課題を振り返り、分析している。

【課題】

可能であれば、毎日、スクールソーシャルワーカーを市教育センターへ常駐させ、学校や家庭からの相談のタイミングを合わせられるようにしていきたいが、予算上の関係から難しい。

【今後の方針】

来年度（令和4年度）もスクールソーシャルワーカーの配置事業は継続予定。

日本語指導教室への通級や外部関係団体との連携をさらに円滑にしていくことで、日本語指導を必要としている児童生徒や日本語習得について悩みを抱えている児童生徒の抱える問題の解決につなげていきたい。

豊田市教育委員会

取組内容

授業改善・学校改革の取組について

■概要

豊田市では「超」集住地域である保見地区で、「魅力あふれる『多文化共生の街“保見”』の深化に向けたコミュニティ・スクールとしての連携―『ちがい』を認め合い、学び合う児童生徒の育成を目指して―」をテーマに研究を進めている。

DLA ステージに応じた学習環境、JSL カリキュラム作成、二言語読書プログラム、ユニバーサルデザイン授業、コミュニティ・スクールとしての連携を柱に、授業改善・学校改革に取り組んでいる。

■実施のきっかけ

外国人児童生徒の割合が年々高くなる保見地区の学校において、令和元・2年度に多文化共生推進校として豊田市教育委員会指定による研究を始めた。

■取組詳細

案内等は日本語の文章だけでなく、ポルトガル語等の翻訳版も準備している。

学校ホームページ・学校だよりで、翻訳版を含み周知を行っている。

また、地域の回覧板での周知もしている

学校には、母語対応ができる市費負担の学校日本語指導員が常駐。

地域学校協働本部と連携を行うことにより、放課後や休日での活動が展開できるようにしている。

【関係団体】

- ・地域の幼稚園、こども園、小学校、中学校、高等学校、大学との連携
- ・豊田市国際まちづくり推進課、トルシーダ・こどもの国（NPO）等

【予算・財源】

国の「帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業」を活用
(学校日本語指導員雇用にかかる費用の補助)

【主な担当者】

学校の教職員

■成果・今後の方針

【成果】

- ・子どもたちの授業参加意欲の向上
- ・協力的な外国人保護者の増加
- ・トラブルの減少

【課題・改善策】

- ・外国人児童生徒等教育を専門に学んできた教員がいないため困った。
- ⇒外部講師を招聘し、継続的な指導を得ている。

【今後の方針】

- ・保見地区での研究成果を、市内に広めていく方針。
- ・日本語指導の指針となる豊田市版カリキュラムの完成を目指す。

■参考資料 (研究概要：保見中版①)

西保見小、東保見小、保見中には様々な言語事情を抱えた子どもたちが…

どの言語も確立していない
1つの言語が確立
1つの言語が確立した上でもう一つの言語も習得中
2つの言語が確立

魅力あふれる「多文化共生の街『保見』」の深化に向けた
コミュニティスクールとしての連携
「ちがいを認め合い、学び合う児童生徒の育成を目指して」

DLA **JSL** 二言語読書プログラム ユニバーサルデザイン授業
コミュニティスクールとしての連携

DLA (Dialogic Language Assessment)	子どもたちの日本語能力を把握
JSL Japanese as a Second Language (第二言語としての日本語指導)	教科指導と日本語指導を統合して学習活動に参加するための力を育成するカリキュラム
二言語読書プログラム	ステージに合った読書活動を通して楽しみながら主体的に読書力を高める。
ユニバーサルデザイン授業	すべての子どもたちに「分かった!」「楽しい!」に繋げるための授業づくり
コミュニティスクールとしての連携	「文化的・言語的に多様な子どもたち」の学びを「保護者・地域・外部機関」と共に支える

子どもたちの日本語能力を把握するための【対話型アセスメント】

DLA
Dialogic Language Assessment

DLAの結果から6つのステージに分けて
特別の教育課程による個別の指導計画に沿った学習活動へ

DLAの様子をしてみましょう

DLAを元にしたステージ分けと
JSLカリキュラムと保見中UD(ユニバーサルデザイン)授業の連携

1	2	3	4	5	6	支援
6	5	4	3	2	1	
6	5	4	3	2	1	
6	5	4	3	2	1	
6	5	4	3	2	1	
6	5	4	3	2	1	

1. 国語 2. 算数 3. 理科 4. 社会 5. 英語 6. 音楽・体育・芸術・保健

6: 保見中UD授業
5: 保見中UD授業
4: 二言語読書プログラム
3: 取り出し授業 6時間
2: 国語JSL特設 二言語読書P1時間
理・社知取り出し 各1時間
1: 取り出し授業 10時間
国語JSL 4時間
理社社会各3時間

様々なステージの子が、一緒にの教室で授業をすることを考え誰もが参加できる
授業と環境づくりが必要!

JSL
Japanese as a Second Language

外国につながる生徒への指導の考え方や手立てを示したものが、それがJSLカリキュラム

取り出し授業 「話す・読む・書く・聞く」力の向上を目指す!

1, 2年生の(DLA)のステージ1の生徒に対して、漢字4時間、国語科4時間、社会科3時間、理科3時間の合計10時間の取り出し授業を実施します。ステージ2-3の生徒には、漢字4時間、国語科4時間、社会科1時間、理科1時間の合計6時間の取り出し授業を行います。国語科4時間のうち1時間を「二言語読書プログラム」に充て、それ以外の3時間でJSLカリキュラムにそった指導を実施します。

場面やテーマを重視した学習活動

クロス取り出し授業 「教科学習言語能力」の効果的な習得を目指す!

「クロス取り出し授業」は、ステージ2-3の生徒を対象に、社会科の授業を行っている時に、取り出し授業対象の生徒は別室で理科の指導を受けます。また、理科の授業を行っている時は、別室で社会科の取り出し授業を受けます。こうすることで、理科と社会科のそれぞれの担当が、取り出し授業でも専門の教科を指導することができ、より効果的な指導につながっています。

クロス取り出し授業で

- ①学習先行型で学習内容を事前に学ぶ。
- ②専ら全体の概念を掴み取る。
- ③理解のポイントとなる箇所や内容を説明。

理科取り出し授業の様子 社会科取り出し授業の様子

日本語成績表

取り出し授業を行った生徒は、通常の漢字検定ではなく、日本語成績表で評価します。

学年	漢字	国語	社会	理科	英語	音楽	体育	芸術	保健
1									
2									
3									
4									
5									
6									

教科学習言語能力の習得のために必要な「読書力」の向上

二言語読書プログラム

「読書力」とは、まとまりのある文を読んで内容を理解する「読解力」や、本や読書への関わりといった「読書習慣・興味・態度」、「言説行儀」などの力を指します。

★「あらすじ再生」などの支援で読解力の向上

実践把握

国語: 週4時間の取り出し授業のうちの1時間

DLAで生徒の読書力レベルと傾向を把握

環境作り

読みかきレベルに合わせた日本語の本

母語の本

読んだページ数を可視化するしかけ作り

オリジナルロケット作り

読書プログラムの名前も生徒が提案

「知能の島」プログラム

ステージに合わせた本

あらすじ再生

自分のレベルに合った本を読む

あらすじ書き

あらすじ発表

あらすじ交換

あらすじ交流

あらすじ再生

日本語と母語の二項目ごとに読んだページ数を記録

読んだページ数に応じてロケットを進める

■参考資料 (研究概要：保見中版②)

「すべての子どもたちの学力向上につながる授業づくり」

ユニバーサルデザイン授業

★3つの観点を意識した授業づくり

- ①「焦点化」・・・学習内容の精選
- ②「視覚化」・・・目から入る情報を整理
- ③「共有化」・・・学習した内容を相互で深め合う

授業ファシリテーター役を複数の言語を話せる教員



「焦点化」



「視覚化」

スリージ分けのわかる帳面家で日本語能力を把握



「共有化」



「共有化」

スリージ分けのわかる帳面家で日本語能力を把握



資料ごとの自己評価表ですどしらの理解度を把握



「文化的・言語的に多様な子どもたちの学びを支えるために」

↓

ユニバーサルデザイン「新着園・こども園・小学校・中学校・高等学校・大学」との連携
「保護者・地域・外部機関」との連携





保見地区「ふれあい祭り」&茶摘み体験

地域学校共働本部と連携

保見アートプロジェクト

NPO法人と連携

学生ボランティア

地域・大学と連携

入学説明会 & 特別支援学級交流

小学生との連携

保育実習

こども園との連携

感謝の活動

地域との連携

多文化共生

未来にはばたけ保見中生

■参考資料 (研究概要：西保見小版①)

西保見小、保見中には様々な言語事情を抱えた子どもたちが...

どの言語も確立していない
1つの言語が確立
もう1つの言語を習得中
2つの言語が確立

魅力あふれる『多文化共生の街“保見”』の深化に向けた
コミュニティ・スクールとしての連携
『ちがいを認め合い、学び合う児童生徒の育成を目指して』

DLA JSL 二言語読書プログラム ユニバーサルデザイン授業 コミュニティ・スクールとしての連携

DLA (Dialogic Language Assessment)	子どもたちの日本語能力を把握
JSL Japanese as a Second Language (第二言語としての日本語教育)	教科指導と日本語指導を統合して学習活動に参加するための力を育成するカリキュラム
二言語読書プログラム	ステージに合った読書活動を通して楽しみながら主体的に読書力を高める。
ユニバーサルデザイン授業	すべての子どもたちを「分かった!」「楽しい!」に繋げるための授業づくり
コミュニティ・スクールとしての連携	文化的・言語的に多様な子どもたちの学びを「保護者・地域・外部機関」と共に支える

個別のDLA実施レポート

DLAの様子

DLA実施レポート-指導員	3	年	1	組	北原	指導員		
2020年度1回目	24	/	16	指導員	21	/	15	指導員
指導員	27	指導員	27	指導員	27	指導員	27	指導員
指導員	1	指導員	1	指導員	1	指導員	1	指導員
指導員	1	指導員	1	指導員	1	指導員	1	指導員

<ステージ2>
ステップ教室で母語支援をしながら手厚く指導

DLA実施レポート-指導員	6	年	1	組	北原	指導員		
2020年度1回目	18	/	16	指導員	32	/	15	指導員
指導員	100%	指導員	100%	指導員	100%	指導員	100%	指導員
指導員	100%	指導員	100%	指導員	100%	指導員	100%	指導員
指導員	100%	指導員	100%	指導員	100%	指導員	100%	指導員

<ステージ4>
在籍教室で自律的に学習し、必要に応じて支援

子どもたちの日本語能力を把握するための
【対話型アセスメント】

DLAの結果から4つのステージに分けて
特別の教育課程による個別の指導計画に沿った学習活動へ

ステージによる少人数クラスの編成

ステージ	1年生	2年生	中学年	高学年
6	【在籍教室で学習】			
5	・日本人児童 ・個別指導計画ありの外国につながる児童			
4	【少人数ジャンプ教室での学習】			
3	・個別の指導計画ありの外国につながる児童のみで編成 ・特別の教育課程による指導 年間200冊を目標に多読させ、読解力を高める			
2	【日本語教室①で学習】 ・個別の指導計画ありの1年生外国につながる児童 ・特別の教育課程による指導	【日本語教室ステップでの取り出し学習】 ・個別の指導計画ありの外国人児童のみで編成 ・特別の教育課程による指導 ・2~6年対象のS(ステップ)カリキュラムで指導		
1	【日本語教室①カリキュラムを実施】 ・日本語初期指導 ⇒日本語教室①カリキュラムを実施	【日本語教室ホップでの取り出し学習】 ・個別の支援計画ありの外国につながる児童のみで編成 ・1年生を含む、編転入生等、特別の教育課程による指導 ・日本語初期指導⇒H(ホップ)カリキュラムを実施		

JSL Japanese as a Second Language

様々なステージの児童が、楽しく参加ができる授業と環境づくりが必要!

外国につながる児童への指導の考え方や手立てを示したものを、ぜひJSLカリキュラム

日本語教室1

自己紹介 好きな場所クイズ

6月祭 七夕祭り 家族紹介

ホップ教室

学校紹介 仕事の依頼 自己紹介

物の名前 個別・母語支援

■参考資料 (研究概要：西保見小版②)

ステップ教室

対象：ステージ3の外国にゆかりのある児童
 対象：4年級5年級6年級の児童による異年齢
 アドバイス授業の学習を重視

自己紹介



夢の家



学校紹介



思い出すごろく



食べ物と栄養



二言語読書プログラム

読み書きの量と質を高め、教科学習言語能力を向上
 児童がステージに合わせて読書活動を通して、楽しみながら主体的に
 日本語の「聞く」「話す」「読む」の力を高める。

<ステージに合った通書・読みたくなる環境づくり>

7-10月図書誌



冊数や本のあらすじを可視化する掲示



<さまざまな読書活動>

あらすじ再生



読書アルバム作り



読み語り



ジャンプ教室

対象：ステージ3の外国にゆかりのある児童
 対象：リライト教材を使用した授業と
 二言語読書プログラムとの連携

リライト教材や視覚化を意識した授業



二言語読書プログラムでのアルバム作り・あらすじ再生



ユニバーサルデザイン授業

「すべての子どもたちの学力向上につながる授業づくり」
 ☆3つの視点を意識した授業づくり！

- ①「**焦点化**」…学習内容の精選
- ②「**視覚化**」…目から入る情報を整理
- ③「**共有化**」…学習した内容を相互で深め合う

「焦点化」リライト教材



「視覚化」



「共有化」



文化の違い・言葉の壁
 いつ・どこで・誰と・何の学習をしても同じを喜びで！
 安心して学校生活を営むことができる！

教師力アップ大作戦 **西保見っ子学習の10か条**

対先生の模擬授業



授業検討会



↓

**すべての子どもたちが
 分かりやすい授業をめざして**

■参考資料 (研究概要：西保見小版③)

コミュニティ・スクール
としての連携

「文化的・言語的に多様な子どもたち」の学びを
変えるために

幼稚園・こども園・小学校・中学校・高等学校・大学 との連携
関係者・地域・外部機関 との連携

地域学校共働本部(読み語り)

キャリア教育

花博ラさん交流

地域学校共働本部(放課後学習)

国小交流会

他小学校との交流

保見中学校との交流

外部との連携(アートプロジェクト)

■参考資料 (ユニバーサルデザイン授業チェック表 西保見小)

ユニバーサルデザイン授業 & JSLカリキュラム チェック表			
参観日	月 日	教科	
授業者 () 先生	参観者 ()		
授業参観で以下の項目にチェックをしながら見ましょう。終わったら、授業者と話しましょう。			
	全体の支援	日本語の支援 (〇はJ教室のみ)	
学習計画段階	学習への意欲を高め、全員が参加できる学習目標が設定されている。 視覚化	<input type="checkbox"/> 教科の目標 ← JSLカリキュラム ①本時のまとめを短冊化して提示	<input type="checkbox"/> レベル別 (学習教室に合わせた) 日本語指導の目標
	言語面の達成目標が設定されている。 視覚化	②押さえる学習言語は?	<input type="checkbox"/> A 取り上げる日本語表現は? <input type="checkbox"/> B 活用する語型は?
	理解、表出を助けるための学習形態が工夫されている。(多角的に学ぶ) 共有化	③全体での話し合い・聞き合い ③個人→ペア→グループ→全体 ③情報収集 (持ち寄り発表)	<input type="checkbox"/> B 同言語によるグループ活動 ⇒日本語で全体に広げる <input type="checkbox"/> B 学習環境の整備 (外国語の書籍設置等)
	4技能を強化する (意図的に使う) 学習ができています。	④聞く 話す 読む 書く	<input type="checkbox"/> C 4技能カードを黒板に提示
	学習目標、学習のめあてを受けて、評価が適切に設定されている。	⑤めざす子どもの姿を具体的に示す。	<input type="checkbox"/> D 日本語指導目標に対する評価を設定
導入	子どもが授業の見通しをもつための工夫がされている。 視覚化・視覚化・共有化	⑥学習のめあて (学習目標を具体的に) ⑥めあてを全員で読む (言う) ⑥取柄の確認・キーワードの確認	<input type="checkbox"/> E めあてカードを黒板に提示 <input type="checkbox"/> E めあてにルビ・赤色下線 (右減線)
	背景知識と関連付ける工夫がされている。子どものやる気・意欲を引き出すための工夫がされている。 視覚化	⑦体験を思い出す。 ⑦動画や写真、紙芝居等で示す ⑦グラフや表を提示する	<input type="checkbox"/> F 日本語指導員による母語支援
	前時との関連付けがされている。 視覚化	⑧前時のふり返しを行う ⑧前時までの提示物・作品提示	<input type="checkbox"/> G 前時の重要表現の提示
理解支援 INPUT	言葉づかいや話し方が意識されている。	⑨短文で、分かりやすく (特に発声) ⑨くり返すときは、同じ言葉で示す ⑨ゆっくり・はっきり ⑨敬語 ⑨敬称を付けて呼名	<input type="checkbox"/> H 正しい日本語で話す
	内容理解や言語理解の工夫がされている。 視覚化・視覚化・共有化	⑩体験を思い出す ⑩具体物の操作 ⑩動画や写真、紙芝居等で示す ⑩グラフや表を提示する ⑩本文に立ち返る (根拠を求める)	<input type="checkbox"/> I ことばの視覚化、動作化 <input type="checkbox"/> I 重要語句・日本語表現の双対唱 <input type="checkbox"/> I リライト教材の作成
	板書が工夫されている。 視覚化・視覚化・共有化	⑪3色チョークの活用 黄色…子どもの考え、重要語句 赤色…つながり、強調 白色…基本 ⑪構造化 (子どもの意識の流れが分かる)	<input type="checkbox"/> K 前時の重要表現の提示 <input type="checkbox"/> K 重要語句のルビ <input type="checkbox"/> K 4技能カードを黒板に提示
表出支援 OUTPUT	深い学びを支える工夫がされている。 視覚化・共有化	⑫動作化 ⑫ペア学習・グループ学習 ⑫ふり返しを書く (メタ認知)	<input type="checkbox"/> L 日本語指導員による母語支援 <input type="checkbox"/> L 同言語によるグループ活動 ⇒日本語で全体に広げる
	子どもの発言や発表を支える工夫がされている。 視覚化・共有化	⑬肯定する。←否定しない ⑬待つ ⑬誤りを言い直す ⑬例えを挙げる ⑬ほめる ⑬キーワード・文型の提示 ⑬学習環境の整備 (提示物等)	<input type="checkbox"/> M キーワード、モデル文の提示 <input type="checkbox"/> M 日本語指導員による母語支援
	子どもの発話を促す教師の活動がされている。 視覚化・視覚化	⑭左手のルール (右手と左手) ⑭発言をつなげる (脱1対1) ⑭ハンドサイン・氏名マグネット活用	<input type="checkbox"/> N 話し始めの言葉を示す <input type="checkbox"/> N 語型を提示 <input type="checkbox"/> N ゲームやクイズを通して発話
評価	学習の理解度や学習状況をチェックする工夫がある。 視覚化・視覚化	⑮ふり返しシート ⑮根拠表の活用	<input type="checkbox"/> O ふり返しカードの視覚化等
	学習者自身が達成感を感じる評価の工夫がされている。 視覚化・共有化	⑯コメント ⑯シール、スタンプ ⑯蛍光ペン等のライン	

■ 参考資料 (ユニバーサルデザイン授業チェック表 保見中)

保見中UD授業チェックシート (支援が、授業で有効的に使われているか確認しましょう。)			
教科領域	科	授業者:	作成日 令和3年
学習目標			月 日
レベル別目標			
【 授業観察 】 視覚化… 焦点化… 共有化… …日本語支援内容 ①…目標チェック数			
全体の支援			メモ欄
授業通して	4技能を強化する(意図的に使う)学習の流れの設定	<input type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 書く <input type="checkbox"/> 話す <input type="checkbox"/> 聞く	④
導入	授業の見通しをもつための工夫	<input type="checkbox"/> 学習目標の提示 <input type="checkbox"/> 流れの確認 <input type="checkbox"/> キーワード確認 <input type="checkbox"/> 日本語表現の説明	③
	前時とのつながり	<input type="checkbox"/> 復習の時間 <input type="checkbox"/> 前時の掲示 <input type="checkbox"/> 作品提示 <input type="checkbox"/> 前時の語彙、キーワードの掲示	②
	背景知識との関連	<input type="checkbox"/> 物語 <input type="checkbox"/> 体験を思い出す <input type="checkbox"/> 動画 <input type="checkbox"/> 写真/グラフ/表	②
理解支援 INPUT	内容や言語理解の工夫	<input type="checkbox"/> 教科書 <input type="checkbox"/> 具体物 <input type="checkbox"/> 動画 <input type="checkbox"/> 写真・イラスト <input type="checkbox"/> グラフ・表 <input type="checkbox"/> 物語・体験 <input type="checkbox"/> ノート、ワークシート	⑤
	板書の工夫	<input type="checkbox"/> 板書の定型化 <input type="checkbox"/> 指示カード <input type="checkbox"/> カラー <input type="checkbox"/> 書き分け(強調) <input type="checkbox"/> ネームプレート	⑤
	教師の言葉遣いの工夫	<input type="checkbox"/> 短文 <input type="checkbox"/> ゆっくり <input type="checkbox"/> はっきり <input type="checkbox"/> 強調 <input type="checkbox"/> ドラマチックに	⑤
表出支援 OUTPUT	理解(INPUT)、表出(OUTPUT)を助けるための学習形態	<input type="checkbox"/> 個人調べ・活動 <input type="checkbox"/> ペア・グループ活動 <input type="checkbox"/> 全体でディスカッション	②
	深い学びを支える工夫(学びの質を支える)	記憶→理解→ <input type="checkbox"/> 応用 → <input type="checkbox"/> 分析 → <input type="checkbox"/> 評価 → <input type="checkbox"/> 創造	①
	生徒の発言や発表を支える工夫	<input type="checkbox"/> 活動のためのルールづくり <input type="checkbox"/> 立ち位置(生徒の近くなど) <input type="checkbox"/> 多くの回数 <input type="checkbox"/> 適切な指名(座席表)	④
評価	生徒の発言を促す教師の活動	<input type="checkbox"/> 肯定 <input type="checkbox"/> 間、待つ <input type="checkbox"/> ジェスチャー <input type="checkbox"/> 強調 <input type="checkbox"/> 例 <input type="checkbox"/> ほめる <input type="checkbox"/> 長い <input type="checkbox"/> 詳しい <input type="checkbox"/> 質が高い	②
	理解、学習状況をチェックする工夫	<input type="checkbox"/> 振り返りシート <input type="checkbox"/> 添削	①
	学習者が達成感を感じる評価の工夫	<input type="checkbox"/> 自己評価 <input type="checkbox"/> 生徒間評価 <input type="checkbox"/> 認めるコメント <input type="checkbox"/> シール <input type="checkbox"/> 作品掲示	①
	語彙や概念の習得を確認する工夫	<input type="checkbox"/> キーワードの確認 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> 語彙 <input type="checkbox"/> 表現ノート	①
↓ 語彙指導の自己評価			TOTAL /50
本時の教科語彙は?		教えた日本語表現	
宿題や個別支援が生かされる場面は?	あった なかった		

東京都教育委員会

取組内容

日本語指導の充実に関する映像教材の
作成・配付について

■取組の概要

東京都公立学校における来日間もない児童・生徒が、日本の学校に転入する際に困ることや知っておきたいことについて理解し、日本の文化や習慣の違いに気付くとともに、学校生活に必要な日本語の習得を図ることを目的に、本映像教材を作成した。

■取組の背景

東京都公立学校における日本語指導が必要な児童・生徒数は外国籍・日本籍を合わせて、近年 4000 人前後で推移しており、外国籍の言語数も多岐にわたっている。
東京都内全ての公立学校において、日本語指導の一層の充実を図る必要が生じていた。

■取組詳細

日本語指導が必要な児童・生徒向けの映像教材の作成に際しては、制作検討委員会を設置し、都内大学教授、東京都小学校日本語教育研究会、東京都中学校日本語教育研究会、区市町村の日本語学級設置校長、都立高等学校長の中から委員を選定、委嘱し、作成協力を依頼した。

映像教材を作成・配付するとともに、東京都公立学校における日本語指導が必要な児童・生徒の状況や東京都教育委員会の取組等についてまとめたリーフレット「日本語指導に関する資料 日本語指導が必要な児童・生徒への指導」を令和 3 年 3 月に都内全公立学校に配付した。

また、東京都教育委員会ホームページに関連資料の一部として掲載し、広く周知を図っている。

【主な担当者】

東京都教育庁指導部指導企画課

■成果と課題、今後の方針

【成果】

日本語指導の充実に関する映像教材「東京の学校生活」を活用した学校の教職員からは、「映像を基にして、様々な状況を想定し、日本語を練習できるため指導の幅が広がった。」「児童の日本語の習得状況に応じて音声と字幕を選択できるため、児童に学習内容を理解させることができる。」等の感想があった。

【課題】

映像教材は DVD 媒体の資料のため、日本語指導が必要な児童・生徒及び指導に当たる教職員が幅広い場面で活用できるよう改善を図りたいと考えている。

【今後の方針】

映像教材の活用事例を作成し、都内公立学校に周知を図る予定。活用事例は、東京都教育委員会ホームページに掲載する予定。

■参考資料

令和2年度日本語指導に関する資料「日本語指導が必要な児童・生徒への指導」
一部抜粋

2 東京都教育委員会の資料

○初期指導に活用できる児童・生徒用資料



日本語指導の充実に関する映像教材
「東京の学校生活～日本の学校で楽しく学ぶために～」

【内容】
来日間もない児童・生徒が、日本の学校に転入する際に困ることや知っておきたいことについて理解し、日本の文化や習慣の違いに気付くとともに、学校生活に必要な日本語の習得を図ることができます。



<主な内容構成>

- 1章 日本の学校生活
 - ① 挨拶・主なコミュニケーション
 - ② 学校内の用具
 - ③ 授業の受け方
 - ④ 学校保健
 - 2章 小学校 3章 中学校
 - 4章 高等学校（2・3・4章共通）
 - ① 学校の1年間
 - ② 持ち物
 - ③ 一日の生活・時間割
- ※校種により
係活動、クラブ活動・当番、給食と弁当、部活動・委員会（生徒会）活動、授業科目・単位、進路などを収録。



外国人児童・生徒用日本語テキスト「たのしいがっこう」



【内容】
学校生活への適応指導に役立つ23言語対応のテキストです。「あいさつ と へんじ」、「からだの ちょうし」等、学校生活に合わせた日本語を学べます。

<目次>

- | | |
|------------|----------|
| 1 挨拶と返事 | 7 私の学校 |
| 2 体の調子 | 8 学校の日 |
| 3 頼む時 尋ねる時 | 9 時間割 |
| 4 学校の行き帰り | 10 学校の一年 |
| 5 仲良く遊ぼう | その他 |
| 6 持ち物 | |

○日本語指導が必要な児童・生徒を指導する教職員用の資料



「日本語指導ハンドブック
その1」(初級者対象)

【内容】
来日後の児童・生徒を指導する初任者を対象としているテキストです。学校生活に最低限必要な内容とし、徐々に主述の整った文章の習得を学習できます。

「日本語指導ハンドブック
その2」(中級者対象)

【内容】
日本語の定着を一層図るために、発展的な内容になっています。児童・生徒の日本語の習熟の程度に応じて、学習時間等を調整して活用することができます。



静岡県教育委員会

取組内容

支援対象校への巡回派遣について

■概要

外部委託により、日本語コーディネーター及びキャリアコンサルティング技能士を支援希望校に派遣。両者の共同により作成した、生徒個々の能力に応じた個別支援プランに基づき、日本語コーディネーターによる日本語指導、キャリアコンサルティング技能士によるキャリア支援を行う。

■実施のきっかけ

静岡県においては、西部地域の製造業を中心に多くの外国人労働者を雇用しており、外国人労働者の子供が高等学校にも多く在籍しているが、日本語の能力の不足により学習や就職に支障がでている課題がある。

日本語への課題を克服することで、学習の伸長さらには卒業後の正規雇用の就職へとつなげ、将来的には地域経済を支える人材となりえることを目指し、令和元年度から実施している。

■取組詳細

生徒の実情や学校の状況に応じ、集団による日本語講座及びキャリア支援、個別の指導による日本語指導及びキャリア支援とともに、Zoom を利用したリモート支援を実施。

キャリア支援の一つとして、生徒同士や大人とのコミュニケーションを図るための生徒支援の場づくりとしてスクールソーシャルワーカー、大学生、フードバンク等のサポートを受けながら、キャリアカフェを実施している。

キャリアカフェでは、参加対象を外国人生徒に限定せず日本人生徒も参加することで、日本語によるコミュニケーションを積極的に行うように促している。

広報活動としては、保護者への直接的な働き掛けが難しいため、生徒を通じた間接的な働きかけにとどまっている。三者面談に立会い、第三者としてアドバイスを行うことも検討したが、日程調整などが難しく、学校からも現状で良いのではないかとアドバイスを受けている。

【予算・財源】

令和3年度は15,300,000円の予算を措置。

うち3分の1（5,100,000円）は国庫補助金「教育支援体制整備事業補助金（帰国・外国人児童生徒等教育推進支援事業）」（文部科学省）を活用し、残り3分の2（10,200,000円）は県費。

【主な担当者】

日本語コーディネーター（長年にわたり日本語教師等の外国人を対象とした日本語指導に従事した実績のある者）、

キャリアコンサルティング技能士（国家資格を有しキャリアコンサルタントとしての実績のある者）を中心に、それに準ずる者が担当。

■成果・今後の方針

【成果】

(1)日本語講座

- ・漢字の読み方や言葉の意味を学習することで学習理解が向上した。
- ・日本語能力試験への興味が深まり、日本語能力試験（JLPT）受験という具体的な目標ができた。
- ・日本語の理解が深まれば学習理解につながり成績アップにつながることを実感し、学習へのモチベーションが上がり、将来の目標に向かって頑張る力がついた。

(2)キャリア支援

- ・日本語で自分の考えや思いを考え、伝える機会が楽しいと感じている。
- ・自分の興味、能力、価値観・展望の自己理解が深まり面接や卒業に向けて自分から考え行動している。
- ・卒業までの時間を大切に考え、就職後に向け今できることを自分から模索している。

【課題】

(1)日本語講座

- ・日本語の授業に参加する必要性をどう伝えるか。
- ・生徒の欠席遅刻

- ・外国人生徒が多数いる学校の支援方法（個別は限界がある）

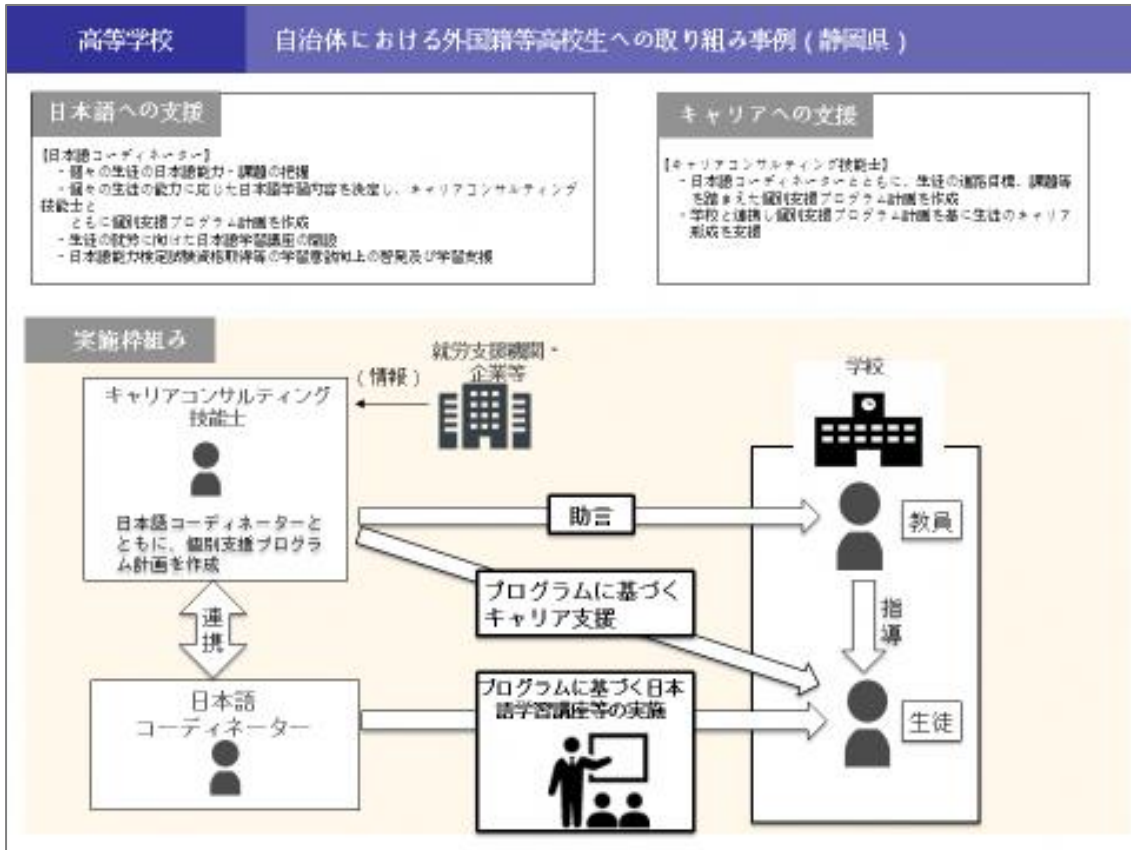
(2)キャリア支援

- ・定時制の生徒では、アルバイトや家庭の事情に左右されることがある。
- ・支援の時間が0時限や放課後に限定される。

【今後の方針】

令和4年度事業については、令和3年度と同程度の事業規模での実施を予定している。就職の際に求められる日本語能力の指標となる、日本語能力試験（JLPT）の資格取得を中心とした日本語支援の強化を行う。

■参考資料（高等学校取組事例 資料）



佐賀県教育委員会

取組内容

DLA の小学校入学前実施について

■概要

DLA を小学校入学前に実施することで、入学後のその児童に対する支援が円滑に進むことを期待し、DLA 支援員の派遣対象を小学校入学前の未就学児まで広げた。

■実施のきっかけ

関係団体及び市町教育委員会からの要望を受け、令和 2 年度の後半に DLA 支援員派遣に係る要綱を改正した。

■取組詳細

就学説明会等で日本語指導が必要と思われる未就学児又は幼児を入学予定校が把握し、市町教育委員会と連携を図り、県へ DLA 実施を依頼。

その後、関係団体と調整し、日本語指導を支援する関係団体の構成員（DLA 測定ができる方）及び日本語指導担当教員に、県が DLA 支援員を委嘱し、対象校へ DLA 支援員を派遣している。

学校や市町教育委員会に対し、年に 2 回程度、DLA 支援員派遣に係る制度の周知を行うとともに、相談等があった場合には、その都度制度の活用について案内している。

【予算・財源】

国補助事業（帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業）を活用。

■成果・今後の方針

【成果】

入学直後からのスムーズな支援が可能となった。また、学校の受入体制の構築にも役立っている。

【課題】

未就学児には、通常のDLAで扱う内容が難しく、適切な測定指針について検討中である。

【今後の方針】

- ・ 帰国・外国人児童生徒の受入と指導の手引き作成
- ・ 県教育センターHPへの日本語指導に係る指導資料の掲載

京都市教育委員会

取組内容

外国にルーツをもつ子ども達の教育に特化した
ウェブサイトについて

■概要

外国にルーツをもつ子ども達の教育に特化したウェブサイト「京都市教育委員会 学校に行こう！」を構築。

■実施のきっかけ

外国人児童生徒等の教育に係る資料等は、従来、京都市教育委員会のイントラネット内での掲載をしていたが、2点課題があった。

1. 外部からのアクセスができないこと
(各種ボランティアや保護者などに情報が届けられない)
2. イン트라ネット内の検索がしにくく情報が取り出しにくい

これらの課題を解決し、必要な方に適切な情報が迅速に届けられるよう、令和2年度予算で専用ウェブサイトを開設した。

■取組詳細

令和2年度予算でホームページ作成ソフトを購入し、担当指導主事が外国人児童生徒等の教育に特化したウェブサイトを作成した。開設時には、全市園・学校にウェブサイト開設通知を行った。

保護者向け・学校向け・その他のカテゴリーに分けて、情報提供や翻訳文書の掲載等を行っている。ウェブサイトに掲載する資料については、府国際センターや市国際交流協会、地域の大学等から情報提供をいただいている。

なお、ウェブサイトは4言語で表記（やさしい日本語、英語、中国語、タガログ語）し、外国人児童生徒等の受入面談の際に保護者に紹介している。

学校向けの就学事務説明会で周知もしており、小学校入学に係る就学通知（やさしい日本語、英語、中国語、タガログ語併記）に、ウェブサイト内の資料のQRコードを同封。他にも、市教委主催の「小学校生活オリエンテーション」の案内、市教委主催の「多言語進路ガイダンス」等、市外も含めて様々な研修等で紹介している。

【主な担当者】

- ・担当指導主事
ウェブサイトの運営
- ・教育委員会の各課や小中学校在籍の日本語指導担当教員
掲載が必要な文書等の情報提供
- ・京都市教育委員会の会計年度職員である「母語支援員」
掲載する翻訳資料等の作成

■成果・今後の方針

【成果】

- ・就学前の面談等で、保護者から就学通知に掲載している QR コードにアクセスしたという声を聞いた。
- ・「小学校生活オリエンテーション」の申込数が予想より多かったりしたことから、資料やイベントの詳細等をウェブサイトに掲載し QR コードを保護者に知らせることにより、興味がある人が簡単に情報を得ることができるようになったと感じる。
- ・外国人児童生徒等の受入れ校に対しての情報提供が一度にできるようになり、学校側も必要な時にすぐに情報を得ることができるようになった。

【課題】

- ・運営担当者が 1 名であるため、情報の更新が後手になってしまうことが多い。
- ・急を要する通知文などについては、日本語のものが出されてからの対応になるため、情報提供が遅れてしまう。

【今後の方針】

- ・ウェブサイト掲載資料の充実
- ・ウェブサイトにアクセスした保護者からの質問を受けられるような仕組みの作成

■参考資料（京都市教育委員会 学校に行こう！

URL： <http://www.edu.city.kyoto.jp/gakkoshido/japanese/>)

京都市教育委員会 **多言語** 学校情報館

Gakko ni ikou!
 学校に行こう!
 Let's go to School!

000044

保護者の方
学校向け
その他



■ 保護者の方

For parents
and guardians.
为 各位家长。
Magulang / Tagapag'alaga



■ 学校向け

For school teachers.
为 学校 老师。
Para sa mga Paaralan



■ その他

Others
其他
Iba pa

PROFILE

京都市教育委員会学校指導課
人権教育担当
〒604-8161
京都市中京区烏丸通二条下ル
隣崎屋町595-3
大同生命ビル 7 階
TEL.075-222-3815
FAX.075-231-3117

INFORMATION

NEW!!
■2022年1月 「通訳ボランティア募集」チラシを掲載しました! ※「その他」のページ

- 2021年10月 「GIGA端末の持ち帰りについて」の翻訳文書を掲載しました。
- 2021年8月 「多言語による小学校生活オリエンテーション」のチラシをアップしました。
- 2021年8月 区役所に通訳タブレットがあります。(英語、中国語、韓国語、ベトナム語、タイ語フィリピン語、ポルトガル語、スペイン語、フランス語、ネパール語、ロシア語)
- 2021年8月 「多言語進路ガイダンス」の資料をアップしました。

copyright©20XX Builder Home Page all rights reserved.

RETURN TO TOP

人権教育

横浜市教育委員会

取組内容

日本語支援アドバイザーについて
日本語支援拠点施設ひまわり プレクラスの独自教材につ
いて

①日本語支援アドバイザー

■概要

国際教室での経験が豊かな教員が各学校を訪問し日本語指導についてアドバイスや研修等を実施するとともに、オンラインによる勉強会、相談会を行う。

■実施のきっかけ

国際教室を新たに開設する学校や日本語指導が必要な児童生徒を初めて受け入れる学校が年々増加していることを受け、日本語指導に携わる教員等を支援するために、令和3年度より実施。

■取組詳細

日本語指導に携わる教員等を支援するために、日本語支援拠点施設「ひまわり（中区）」及び「鶴見ひまわり」に、国際教室での経験が豊かな教員である日本語支援アドバイザーを1名ずつ配置。

日本語支援アドバイザーは、各学校を訪問して、アドバイス等の支援や校内での研修等のほか、オンラインによる各学校の国際教室担当教員との相談会、勉強会を年9回程度実施している。

4月に全校あてに事業について通知するとともに、新たに国際教室が設置された学校にはアドバイザーから直接連絡し、事業内容等を学校に説明。

訪問支援では、国際教室担当教員に対し、時間割や掲示物の作成等、国際教室運営に関するアドバイスを行っている。

さらに、オンライン研修会は、効果的な運営方法、教科と日本語の統合学習やDLA等、毎回テーマを設定し実施している。

アドバイザーが直接学校訪問するだけでなく、電話やメールでの相談、毎回のオンライン研修会の中で相談の時間を設けるなど、国際教室担当教員が相談しやすい体制を整えている。

【広報活動】

全校への通知、校長会での説明などにより各校に広く周知を行っているため、国際教室の時間割の作成方法や日本語指導方法等だけでなく、中学校卒業後の進路選択の相談など、担当教員が迷っていることなどを気軽に相談できる体制ができている。

【主な担当者】

国際教室での経験が豊かな小学校教員と中学校教員の2名が担当。

所属校での指導及び他校の訪問を通じた国際教室担当教員への支援を行っている。

■成果

・国際教室を新たに開設する学校や日本語指導が必要な児童生徒を初めて受け入れる学校が年々増加しているだけでなく、初めて国際教室を担当する教員が毎年、全担当者の半数前後の人数となっているが、担当経験が浅い教員から経験年数が豊かな教員まで、幅広く支援を行うことができた。

・学校訪問での支援では、初めて担当となる教員に対しては、国際教室掲示物の効果的な掲示方法、時間割の作成から指導教材の選定などに関する助言、担当経験が豊かな教員に対しては、学校の実情に応じた運営方法や校内研究授業時の指導案作成などをともに考えることができた。

・オンライン研修会では、感染症拡大防止により集合研修が通常通りに実施できない中でも、日本語と教科の統合学習やDLA実施方法の発信、「マイ国際教室」として各学校の国際教室の風景などを発信、共有することができた。

・学校訪問やオンライン研修に参加した担当教員や学校管理職からも「初めての担当で不安だったが聞きたいことをすぐに聞くことができた」など好評を得ている。

②日本語支援拠点施設ひまわり プレクラスの独自教材

■取組名称・概要

ひらがな学習のための日本語支援拠点施設ひまわりのプレクラス独自教材である「ひまわり練習帳 1」及び、ひらがな特殊音学習のための「ひまわり練習帳 2」を発行している。

■実施のきっかけ

日本語指導の専門的な知識をもたない教員等を支援するために、プレクラスにおける集中的な日本語指導ノウハウを教材としてまとめ、
「ひまわり練習帳 1」（清音編）を令和元年 9 月に、
その続編となる「ひまわり練習帳 2」（特殊音編）を令和 3 年 9 月に発行。

■取組詳細

プレクラスにおける集中的な初期日本語指導のノウハウをプレクラス指導員や日本語講師が教材としてまとめ、ホームページに掲載するとともに、各学校にも配付し、国際教室等での指導で活用している。

（「ひまわり練習帳」の冊子データは横浜市 HP に掲載。）

<<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/plankoho/kyouikukoho/default20191204.html>>

ひらがな清音練習（ひまわり練習帳 1）、

濁音などのひらがな特殊音練習（ひまわり練習帳 2）に教材を分けて作成。

子どもの学年に応じて文字の書くマスの変更するなど、「小学校低学年」、「小学校高学年」、「中学校」の 3 冊を発行し、小学校には冊子にした「低学年用」と「高学年用」の 2 冊、中学校には「中学校用」の 1 冊をそれぞれ配付。

また、状況に応じて必要なページを印刷できるように、HP 上には全体版と分割版の 2 種類の PDF データを掲載している。

全校への通知などにより各校に周知するとともに、ひまわりの指導者が学校を訪問し、練習帳の使い方などを担当教員に説明している。

その結果、教材などが整っていない学校などで急な編入学があっても、指導時に活用することができている。また、国際教室や在籍級での使用だけでなく、個別支援学級でのひらがな学習時に練習帳を使用している学校もある。

【主な担当者】

ひまわりの指導者（会計年度職員）が作成を担当。（プレクラス指導員・日本語講師）

■成果

・国際教室を新たに開設する学校や日本語指導が必要な児童生徒を初めて受け入れる学校には、日本語指導に関する教材が整備されていないことが多い。

急な編入学などに「ひまわり練習帳」を活用することで、日本語指導を速やかに開始することができた。また、迷路で遊んだり色塗りができる「ひとやすみ」のコーナーがあるなど、ひらがなを楽しみながら学習できる構成となっており、家庭での学習や個別支援学級でのひらがな指導の際にも活用されている。

①②事業全体

■予算・財源

両事業の事業費については、文部科学省の「帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業」より、補助金の交付を受けている。

■今後の方針

横浜市の日本語指導が必要な児童生徒は年々増加をし続けており、市内でも特定の地域への集住とともに、散在化も進んでいる。

「だれもが、安心して、豊かに」学校生活を送れるよう、各校の状況やニーズ等を踏まえ、引き続き各事業の拡充を検討している。

■参考資料

(資料1) R3 日本語指導が必要な外国人児童生徒教育

横浜市における日本語指導が必要な児童生徒教育・支援					
R3年 5月1日 小中学校企画課					
1 横浜市における外国籍及び外国につながる児童生徒数(小・中・義務教育学校)					
(5月1日現在)※R2のみ7月1日現在					
	H29(2017)	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)
外国籍・外国につながる	9,129	9,713	10,103	10,933	11,252
外国籍	3,111	3,415	3,658	4,127	4,386
中国・台湾	1,519	1,801	2,039	2,376	2,573
フィリピン	391	408	376	400	409
韓国・朝鮮	249	255	245	266	261
ベトナム	236	229	237	252	255
ブラジル	161	141	143	162	158
ペルー	97	90	87	84	84
ネパール	37	50	49	56	77
アメリカ合衆国	38	39	41	53	56
インドネシア	37	38	36	29	39
パキスタン	36	31	39	41	39
インド	10	11	25	30	39
外国につながる	6,018	6,298	6,445	6,806	6,866
※国籍及びつながる国の総数: 109 개국					
日本語指導が必要	2,080	2,320	2,705	2,923	3,110
※日本国籍、帰国児童生徒含む					
2 国際教室担当教員配置校・非常勤講師・外国語補助指導員					
○日本語指導が必要な児童生徒への指導を担当する教員を配置する。国際教室を設置し、日本語指導、教科指導、生活適応指導等を行う【H4～】					
★配置期間 : 1年間					
★配置目安 : 日本語指導が必要な児童生徒数に応じて配置。 (H29より配置基準変更。外国につながる児童生徒も含む。)					
年度	H29(2017)	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)
国際教室担当教員配置校数	109	121	142	167	186
小学校	85	96	112	131	147
中学校	24	25	30	36	39
★R3国際教室設置校(186校)					
(小)147校(内 新規設:21校) 生妻小、豊岡小、鶴見小、瀬田小、下野谷小、市場小、市場小けやき分校、平安小、東吉小、下末吉小、東台小、藤原小、矢向小、入船小、寺尾小、汐入小、馬場小、駒岡小、獅子ヶ谷小、上寺尾小、新鶴見小、三ツ沢小、青木小、幸ヶ谷小、浦島小、平安小、神橋小、西寺尾小、西寺尾第二小、神奈川小、羽沢小、菅田の丘小、南神大寺小、東小、藤原台小、西鶴小、平沼小、宮谷小、戸部小、浅間台小、みなとみらい本町小、本町小、山元小、元街小、北方小、大島小、関門小、立野小、本牧南小、本牧小、南吉田小、石川小、中村小、日枝小、藤田小、大岡小、井土ヶ谷小、永田小、南太田小、太田小、南小、藤の木小、永田台小、六ツ川原小、日下小、下永谷小、港南台第三小、富士見台小、稚子小、岩崎小、弘向小、新井小、坂本小、瀬戸ヶ谷小、上菅田の丘小、二俣川小、今宿小、今宿南小、滝頭小、磯子小、浜小、杉田小、根岸小、藤原小、梅津小、洋光台第一小、さわの里小、洋光台第三小、洋光台第四小、森東小、藤原小、文庫小、六浦小、釜利谷小、西栗小、並木第一小、並木中央小、並木第四小、能見台小、小田小、大塚小、大曾根小、港北小、下田小、綱島東小、太尾小、小机小、十日市場小、三保小、竹山小、上山小、中山小、霧が丘(前期)、つつが丘小、霞が丘小、もえぎ野小、みたけ台小、藤田小、藤田小、藤田小、藤田小、川和東小、戸塚小、東戸塚小、大正小、小雀小、柏尾小、川上北小、名瀬小、平戸台小、霧が丘小、上矢部小、本郷小、飯島小、上飯田小、新橋小、飯田北いちよう小、原小、上瀬谷小、藤原小、南瀬谷小、二つ橋小、瀬谷第二小、相沢小、藤原さくら小、阿久和小 (中)39校(内 新規設:4校) 市場中、矢向中、鶴見中、寺尾中、瀬田中、寛政中、栗田谷中、浦島中、六俣中、菅田中、藤中、老松中、港中、仲尾台中、本牧中、横浜吉田中、平栗中、共進中、永田中、藤の木中、笹下中、丸山台中、岩崎中、根岸中、岡村中、洋光台第二中、森中、金沢中、藤原中、富岡東中、中山中、霧が丘(後期)、青葉台中、舞岡中、平戸中、上飯田中、いずみ野中、瀬谷中、下瀬谷中					
○日本語指導が必要な児童生徒が一定数に達する学校に、在籍数に応じて「日本語指導が必要な児童生徒支援非常勤講師」を配置する【H25～】					
○日本語指導が必要な児童生徒が一定数に達する学校に、「外国語補助指導員」を1名配置する【H25～】					
★R3「外国語補助指導員」配置校(11校)					
瀬田小、入船小、東小、本町小、元街小、日枝小、南吉田小、滝頭小、飯田北いちよう小、瀬田中、横浜吉田中					

3 日本語支援拠点施設「ひまわり」【H29～】・「鶴見ひまわり」【R2～】

- プレクラス【H29～】515名の児童生徒が参加(H29年9月～R3年3月):
外国から、新たに転・編入学してきた児童生徒を対象に、1か月間、週3日の集中的な日本語の初期指導及び学校生活の体験を行う
- 学校ガイダンス【H29～】533組の児童生徒・保護者が参加(H29年8月～R3年3月): 外国から、新たに転・編入学してきた児童生徒及びその保護者を対象に、英語、中国語、タガログ語、スペイン語、ポルトガル語、やさしい日本語による日本の学校生活等の紹介及び児童生徒の学習状況確認を行う
- 就学前教室「さくら教室」(「ひまわり」のみ実施)【H29～】のべ233組の児童・保護者が参加(H29、H30、R2)日本語支援が必要な新小学1年生及び保護者を対象に、学校生活の体験と学校生活の紹介を行う。
3月第1、第2土曜日に実施 ※R1年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

4 横浜市日本語教室

- 日本語の初期指導が必要な児童生徒に対して、日本語指導資格をもった講師が指導を行う【S56～】
【集中教室(児童生徒が通級)】 Y校教室、豊岡教室、飯田北いちよう教室、並木第一教室、
横浜吉田教室 月曜日～金曜日・週2回 計40～60コマ
【派遣指導(日本語講師を各小学校へ派遣)】 月曜日～金曜日・週1回 計30～55コマ
【日本語講師の対応言語内訳】 R3年度:50名
中国語(28) 英語(27) スペイン語(12) ポルトガル語(5) 韓国・朝鮮語(5) ドイツ語(3) タイ語(2)
インドネシア語(2) フランス語(2) ベトナム語(1) イタリア語(1) スウェーデン語(1) クメール語(1)

★入級者数

年度	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)
合計	554	526	560	567	453
集中教室	149	137	142	120	81
派遣指導	405	389	418	447	372

5 母語支援ボランティア活用事業

- 「母語による初期適応・学習支援」:対象となる日本語指導が必要な児童生徒へ、母語のできるボランティアによる初期適応支援【H20～】・学習支援【H18～】を行う
【配当回数】対象児童生徒1人につき、国際教室のない学校50回まで、国際教室のある学校30回まで
- 「母語による中期放課後等学習支援」:初期適応・学習支援実施後等の児童生徒へ放課後や長期休業期間中等に、母語のできるボランティアによる補習等の学習支援を行う【R2～】
- 「保護者等通訳支援」:学校が見つけた母語支援ボランティアによる通訳支援【R2～】

6 学校通訳ボランティア(保護者対応)

- 市立小・中・義務教育学校における転入学の説明、個人面談、入学説明会、家庭訪問等での通訳を行う
- ボランティアの派遣は、公益財団法人横浜市国際交流協会(YOKE)に業務委託【H18～】

★派遣実績(回)

※R2は新型コロナウイルス感染症拡大防止として、派遣内容に大幅な制限を実施

年度	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)
回数	1222	1477	1,472	1,807	157

7 各種ガイドブック等発行(配布・HP)

《横浜市教育委員会HP掲載》

- 「ようこそ横浜の学校へ」【H24～】
- 「横浜市帰国児童生徒教育ガイド」【S56～】
- I 日本語指導が必要な児童生徒受入れの手引
- 「ひまわり練習帳1(清音編)・カード集」【R1～】
- II 学校通知文・用語対訳集(※対訳あり)
- 「ひまわり練習帳2(特殊音編)・カード集」【R3～】
- III 保護者の方へ～横浜の学校生活～(※対訳あり)
- ※日本語支援拠点施設プレクラス独自教材
- ※7か国語対訳(英語、中国語、スペイン語、タガログ語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、ベトナム語)

8 日本語指導者養成講座・日本語指導者養成中級講座・上級講座

- 日本語指導の仕方、日本語指導が必要な児童生徒の受入れと指導等を主題とした教員研修
- (1) 日本語指導者養成講座【H22～】(全7回、募集人員90名)
○全校対象(国際教室担当1年目の教員は悉皆参加)
- (2) 日本語指導者養成中級講座【H30～】・上級講座【H29～】(各2回ずつ、募集人員50名と30名)
○中級講座は全校対象、上級講座は主に日本語指導者養成講座を前年度までに修了した教員を対象

9 日本語支援アドバイザー

- 国際教室での経験が豊富な教員が各学校を訪問し日本語指導についてアドバイスや研修等を実施【R3～】
- (1) 各学校を訪問し、管理職、担当教員等による相談、授業へのアドバイス等
- (2) 各学校での校内研修等の講師
- (3) オンラインによる相談会、勉強会の開催 等

(資料2)【記者発表】(教育委員会事務局・9月29日10時)「ひまわり練習帳1」の続編となる「ひまわり練習帳2」(特殊音編)を発行しました！」



横浜市記者発表資料

令和3年9月29日
教育委員会事務局
小中学校企画課

ひまわり練習帳1の続編、特殊音編が完成！

「ひまわり練習帳2」を 発行しました！

来日したばかりの児童生徒やその保護者への支援のため、横浜市では「日本語支援拠点施設『ひまわり』『鶴見ひまわり』」において「プレクラス(裏面参照)」で約1か月、週3日の集中的な日本語指導等を行っています。

集中的な初期日本語指導のノウハウをまとめ、プレクラスでも使用している「ひまわり練習帳1」を令和元年に発行しましたが、このたび、その続編となる「ひまわり練習帳2」(特殊音^{*}編)を発行しました。

今後は、各学校での指導に活用していきます。

※濁音、半濁音、促音、長音、拗音のひらがな





「ひまわり練習帳2」のポイント 日本語特殊音の初期指導に最適！

- 1冊でひらがな特殊音^{*}全てを学習できる！
- 「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の全てに対応！
- かわいいイラストで、日本語がわからない子どもたちにも理解しやすい！
- 子どもの学年に応じて文字の書くマスの大きさを変更するなど、「小学校低学年」(A4版50頁)、「小学校高学年」(A4版58頁)、「中学校」(A4版50頁)の3冊を発行！



「ひまわり練習帳1」は、学校からも「基礎の導入教材として、コンパクトにまとまっていてよい」「子どもの覚えが早い」など評価をいただいています！

※「令和3年度日本語支援拠点施設「ひまわり」「鶴見ひまわり」に関するアンケート」より









裏面あり

参考1

横浜市の状況

日本語指導が必要な児童生徒は増加傾向にあり、10年間で1,915人、約2.6倍に増加しています。



参考2

プレクラスとは…

（水曜・木曜・金曜実施）

外国から来たばかりの子ども達は日本語がわからないだけでなく、学校のルールや文化の違いなどに戸惑うことが多くあり、不安を感じています。靴を履きかえて校舎に入ることを知らない、授業中トイレに行きたくなったときにどうすればいいかわからない、母国の学校にはない教科がある…。

プレクラスはそんな子ども達が学校に入った最初の1か月、週3日通う学校です。日本語を集中して勉強したり、日本の学校生活を体験したりすることで、日本の学校に早く慣れることを目的としています。

子ども達は、小学校低学年、小学校高学年、中学校の3クラス（各クラス最大20名）に分かれ、日本語指導の専門家や小学校・中学校教員経験者からの指導を受けます。



「ひまわり練習帳2」の冊子データは横浜市HPに掲載しています。

URL:<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/plankoho/kyoikukoho/default20191204.html>



お問い合わせ先

教育委員会事務局 小中学校企画課日本語支援担当課長 出川 進 Tel 045-671-3588

長門市教育委員会

取組内容

通訳翻訳支援・翻訳機の導入について

■概要

長門市内小・中学校に在籍する外国籍の児童・生徒及びその保護者に対して、タブレット型情報端末を活用した学習補助と支援員（ながと日本語クラブ）による通訳・翻訳の支援を実施。

■実施のきっかけ

市内に在住している外国籍の方（児童・生徒）が増加したため、平成 31 年度より実施。

■取組詳細

学校と対象となる保護者と話し合いを行い実施している。

具体的な支援内容としては、長門市内小・中学校に在籍する外国籍の児童・生徒及びその保護者に対して、緊急性や重要度の高い文書の理解や提出が求められる文書について、支援員による通訳を実施。

令和 2 年度より、タブレット型情報端末を活用しても学習の定着が困難な外国籍の児童・生徒に対して、保護者の許可を得て、週 1・2 時間程度、支援員による日本語指導を行っている。

外国籍の保護者等に対する直接的な広報は行っておらず、年度初めの校長会で周知し、校内で活用が必要かの有無について検討後、申請するように伝えている。

【主担当】

学校の教職員：タブレット型情報端末
ながと日本語クラブ：支援員

【連携している関係団体】

ながと日本語クラブ

【予算・財源】

- ・ 通信運搬費（タブレット型情報端末） 578,000 円（令和 3 年度）
- ・ 業務等委託料（ながと日本語クラブ） 261,000 円（令和 3 年度）

いずれも一般財源にて執行。

■成果・今後の方針

【成果】

児童生徒が明るく楽しく毎日登校している。

保護者も安心されており、学校教育活動に理解を示し積極的に参加いただいている。

【課題・改善策】

多国籍になり、使用言語が多くなってきたため、支援員では対応できない場合がある。

⇒ながと日本語クラブに加入している外国籍の方に協力いただき、外国籍の方に外国籍の方の通訳をして頂く。

【今後の方針】

児童生徒に限らず、園児も対象として拡充を図る。

5歳児すこやか相談会、就学時健診のスクリーニング検査 などを検討中。